

## 日本学術会議第二部会（第26期・第1回）議事要旨

1. 日時：令和5年10月3日（火）10:45～12:15、13:33～15:15

2. 会場：日本学術会議6-A(1)(2)会議室

3. 出席者：（敬称略）62名

現地（54名）：五十嵐、磯、磯部、岩崎、大越、岡田、岡村、奥田、奥野、尾崎、金井、狩野、神田、北島、木村（直子）、木村（通男）、熊谷、後藤（英司）、五斗、小林、佐々木、斯波、杉本、杉山（久仁子）、杉山（淳司）、高橋（尚人）、高橋（良輔）、高山、竹中、玉腰、土井、中嶋、西川、西谷、西村、野田、野出、樋田、深田、藤井、藤原、古屋敷、堀、三谷、村上、森山（啓司）、森山（美知子）、山口、山崎、山田、山本、柚崎、渡辺（京子）、渡辺（雅彦）

オンライン（8名）：秋下、荒井、加藤、後藤（由季子）、澤、寺崎、村山、安友

（事務局：若尾、増田、沖山、上野、萩原）

### 4. 議事

部長選任までの間の座長として、深田吉孝会員が選任された。

#### 1) 自己紹介

各会員より自己紹介があった。

#### 2) 部長の互選について

3回の投票の結果、神田玲子会員が部長に選任された。

#### 3) 部長による副部長、幹事の指名

部長より、副部長に尾崎紀夫会員、幹事に奥野恭史会員、堀正敏会員が指名され、承認された。

#### 4) 分野別委員会の委員について

各会員が所属する分野別委員会について確認し、幹事会に諮ることが了承された。また職名変更への対応、連携会員の委員会への参画や連携会員（特任）の手続き等への質問に対して、事務局から説明があった。

#### 5) 分科会のあり方等について

事務局より資料の概要説明、神田部長より25期の幹事会における議論の説明があり、分野別委員会の分科会等の設置方針につき議論を行った。会員からは、分科会の改革の目的や必要性、検討のプロセス、分科会の評価基準、横連携の可視化や仕組みづくりなどに関する様々な意見が出された。

具体的には以下の通り。

- ・分科会構成員の数を減らすことが目的なのではなく、学術会議らしい活動をしていくための体制を考えることが必要。
- ・分科会の数に削減目標を設けるのではなく、各分科会の連携を目指して再編していくのがよい。
- ・ボトムアップでどこが問題なのかを掘り下げる議論をするべき。
- ・委員会幹事のリーダーシップも必要
- ・複数分科会に参加している個人に着目してクラスター化すると分科会の関連性が見えてくるのではないか。そうした分析をしてはどうか。
- ・分科会を何のために開催しているのかを外部に向けても見せていく必要がある。設置理由をしっかりと説明できるよう、その必要性を検討する必要があるということではないか。
- ・分科会の評価軸を決める必要がある。意思の表出やシンポジウム開催だけで評価してよいのか。
- ・学術会議全体のあり方の議論が決まらないと分科会の見直しはできないのではないか。
- ・26期はどのようなテーマで活動をしたいのかを考えていくと、横での連携ができてくるのではないか。今やらなければならないテーマやビジョンを問うてみるのも一案ではないか。

6) 連携会員説明会の日程について

事務局より概要説明があり、第二部役員および分野別委員会委員長に出席依頼があった。

7) その他

- ① 学術会議のあり方として、学术界全体の意見を集約し、日本を代表して国際会議に出席するような体制となるとよい。現在はそれぞれの科学者が個人で国際会議に出席している傾向が強いとの意見が出された。
- ② 会則第27条第2項に基づく分科会の決定の取り扱いにつき、複数委員会の合同で設置されている分科会ではどの委員会が責任を持つのかという論点が提起された。
- ③ 若い世代の委員の加入方法、他部との連携の手法、分科会において社会のニーズを吸い上げる方法につき、質問があり、神田部長及び事務局より回答した。

以上